

## 第13回滋賀県下水道審議会 議事録（概要版）

1 日時：令和2年（2020年）11月6日（金） 10：00～12：15

2 場所：滋賀県防災危機管理センター1階 会議室3、4

3 出席委員：（五十音順、敬称略）

岡本芳子委員、上村照代委員、木下康代委員、清水芳久委員（副会長）、杉澤喜久美委員、只友景士委員、西野麻知子委員、橋川渉委員、松井三郎委員（※会長）、松村順子委員

【委員全体10名中、出席10名】

（事務局：下水道課長、下水道課関係職員）

4 開会あいさつ等

- ・開会のあいさつ

5 議事内容

### 議題 滋賀県下水道第2期中期ビジョンの策定について

事務局より資料1,2,3 および参考資料1,2,3に基づき説明

・「はじめに」の「病気の蔓延」は、コロナなどの問題もあるため、「感染症の蔓延」と表記した方がよいのではないか。

また、3.2 第1期中期ビジョンの評価の構成について、最初に課題の一覧表があり、その後全体の評価が記載されているため、課題が強調されすぎている。課題の一覧表を最後に示した方が読みやすいのではないか。＜委員＞

・第7章でSDGsとの関連性を取り上げているため、4.1背景にもSDGsを追加した方がよいのではないか。＜委員＞

・4.4 コンセプトについて

みんなで：「多様な主体の参加に倣い」を「参加を踏まえ」と表現した方がよいのではないか。  
地域と琵琶湖を健康に：下水道が水質保全の基本インフラであることを強調し、県民の健康を下支えするというを書いた方がよいと思う。また、「持続可能な社会が」は「また良好な水環境、豊かな生態系が保全された持続可能な社会が」と説明を付け加えることで、下水道としての役割が明確になる。また、汚泥の有効利用に関心が高まっているため、「下

水道を有効な資源と捉える」を後ろにしたほうが強調されるのではないか。

当たり前の安心：下水道が使える安心だけではなく、「下水道が存在することによる安心」を付け加えた方がよいのではないか。〈委員〉

・ P.1-10 で都市浸水対策達成率が低いことについて、原因や対策が書かれていないため、記載した方がよいのではないか。

また、P.4-2 前回の第 1 期中期ビジョンと同様に、必要に応じて、中期見直しを行うことを付け加えた方がよいのではないか。〈委員〉

・ 全体を通して、句点・読点が多用されているため、見直していただきたい。

〈委員〉

・ P.1-9 汚泥処理のリサイクル率を処理場ごとに示したほうが分かりやすい。

〈委員〉

・ 概要版、第 5 章の 11 個のテーマに示されている「目指す将来の姿」の説明文について、すべて文末が「を目指す」と表現されているが、動詞ではなく、体現止めにした方がよい。

また、P.5-56 テーマ 11 に、県民や下流域の住民に広めるということを目的としていることを記載した方がよいのではないか。〈委員〉

・ 概要版 P.2 中央の図の 5 つのキーワードのカラーと同ページ下部の表内のカラーが合っていないため見直していただきたい。〈委員〉

→パブコメでも、市民は概要版から入ってビジョンに入っていくと思われるため、概要版の内容やビジョンとの連携は注意深く確認をしていただきたい。〈会長〉

・ P.3-3IV 経営管理の「広域化・共同化研究会」について、研究会の名前や取組状況等、具体的な内容を記載した方がよいのではないか。〈委員〉

・ P.1-4 に災害時対応として、マンホールトイレの補充や防災グッズの備蓄が書かれているが、テーマ 4「災害への対処」には、そういった文章が出てこない。市民にとって、災害時のトイレの問題は非常に重要であるため、例えば P.5-32「その他の災害を想定した対策の構築」に災害時の下水道の利用についての市民に対する情報提供を追記していただきたい。

同様に P.5-56「下水道情報の発信と住民参加」にも防災の視点を追記していただきたい。ビジョン全体を通して、防災の視点が不足していると感じる。

専門用語が多いため、最後に用語解説をつけていただいたら分かりやすい。

〈委員〉

→防災面に関しては、県と市町の連携が必要である。マンホールトイレの整備は市町の業務として行い、住民への啓発や訓練への参加を呼び掛けている。防災面に対する記述が薄いように思うので、書き加えてほしい。〈委員〉

→マンホールトイレがどこにあるのか、どう使うのかといった情報は、あまり知られていないことが課題であるため、情報の発信については書ける範囲内で記載した方がよい。

〈会長〉

・P.6-2の「住民の役割」に防災の視点も追記した方がよいのではないかと。

また、P.5-4「処理場を中心としたバイオマスの地域循環」施策の方向性の3つ目について、最後は消費者の理解を得たうえで積極的に利用していただく状況にならないといけないため、そういった内容を追記した方がよいのではないかと。〈委員〉

・P.5-39に各市町の経営指標として下水道の接続料と使用料単価が示されているが、これだけでは市町の格差が分かりにくいと、前回の中期ビジョン見直し時にあった汚水処理原価、経費回収率、有収率を入れていただけたらと思う。〈委員〉

→前回は汚水処理原価を入れていたが、市町への照会結果から数字の正確性に疑問があり、間違った議論を誘発する恐れがあったため、最も確実な使用料単価や下水道接続率を記載した。下水道接続率を上げることによって汚水処理原価が下がり経営が良くなるという方向性で議論が可能である。〈事務局〉

・7章SDGsとの関連性について、ビジョンからSDGsに結び付けている構成にみえる。県民はSDGsではなく、ビジョンに目を向けてもらう必要があるため、SDGsからビジョンに結び付けを行うように構成を見直した方がよいのではないかと。〈委員〉

・P.5-56 施策の方向性に水環境教育の啓発の拠点作りを追記していただきたい。

〈委員〉

→P.5-6～P.5-8に書かれている通り、「市民教育」という言葉は使っていないが、以前から県の下水道で取り組んでいる。引き続き取り組んでいただければと思う。マンホール蓋の展示等も実施している。〈会長〉

・ビジョン全体を通して「みんなでの」視点が欠けていると感じる。ビジョンを作成する過程でもグループワークやフォローアップアンケートは県職員、市町職員が対象であり、市民が参加した形跡が見られない。

また、P.6-2の住民の役割に情報に積極的に関心をもつと書くのであれば、市町の役割として情報を分かりやすく発信し、関心をもつていただくことを追記した方がよいのではないかと。

ビジョン全体を通して、県民と住民という言葉をどのように使い分けているのか確認していただきたい。

下水道サポーターとして登録し、意見交流会やメールマガジンにより、より深い理解者を増やすといった一方向ではなく、県民の意見を取り上げる等、双方向の視点を追記していただきたい。＜委員＞

・P.6-3の進捗管理に「関連計画があるメニュー」と「関連計画がないメニュー」とあるが、どのように分類しているのか分かりにくい。また、関連計画の有無に関わらず、グループワークやフォローアップアンケートを取り入れた仕組みを作っていただきたい。＜委員＞

・P.7-12のテーマ11「下水道情報の発信と住民参加」は、SDGsのゴール17番と関連性があると思うので追記していただきたい。＜委員＞

・県のエネルギー政策につなげた視点を入れていただきたい。＜委員＞  
→それはテーマ2ですがCO<sub>2</sub>ネットゼロを記載しており、県のエネルギー政策を指している。＜会長＞

ビジョン全体を通して、「みんな」 という視点が不足していることについて、例えば素案のP.4-3の3行目にある「これは滋賀県および市町が取り組んでいく施策の方向性を示す」に「みんな」や「県民と住民」という表現を追記していただきたい。＜委員＞

## 6 閉会